

# 菊川西中だより

## 校長室の窓

人の気持ちを  
「考えよう」  
から  
「尊重しよう」へ



私は31才の時、県教育委員会が推薦してくださり、文部省(当時)主催の「情報教育」の研修会に参加するため、夏休みに2週間東京工科大学に滞在しました。それが私の「情報教育」の始まりでした。そして現在、ネット社会の発達と共にスマートフォンの「LINE」に代表されるコミュニケーションツールの発達によって「**ネット社会の影の部分**」はますます子どもたちの身近に迫っています。

私は今から10数年前、ある中学校で研究主任として「情報教育」の研究発表をしました。その時「情報モラル」について、協議会である小学校の先生が「情報モラルの指導は突き詰めれば『相手の気持ちを考えて発信する』に尽きる」と言う発言をされました。私は答えました。「それは、教室で40人の子どもたちが意見のやり取りをする場合は正しいのですが、メディアの発達で世界と教室が繋がる時、そうではありえません」と。言語・歴史・文化・風習の違う世界の人たちの「**気持ちを完全に分かる事など不可能**」です。例えば、ある環境保護団体が捕鯨反対の運動をします。しかし、日本には「鯨を食べる」という歴史と伝統があります。もしヒンズー教の人たちが「牛は神聖な動物だから『闘牛』なんてとんでもない。すぐ止めるべき。ビーフステーキも食べるな。食べるやつは野蛮人だ」と言い出したら受け入れられるでしょうか。「ヒンズー教の教え」も「闘牛」もそれぞれが歴史と文化なのです。「相手の気持ちを考えて」という言葉の裏には「**考えれば相手の気持ちが分かる**」が込められています。しかし「**考えて、考えて、それでも相手の気持ちは分からない**」という学習が、ネット社会を生きる現在の子どもたちに必要なことだと思うのです。「相手の気持ちが分かるから考えよう」ではなく「**分からないから尊重する**」へのパラダイムシフトです。

小学生の子どもたちがけんかをしました。「○○ちゃんが△△するから・・・」止めに入った大人がよく聞く言葉ですね。この言葉は「**(自分は○○ちゃんに□□して欲しいのに、僕の気持ちに反して)△△するから・・・**」と言う意味と取れます。この裏には「**相手は、自分の気持ちを分かっているはずで、それに反することをしたから「いじわる」なんだ**」です。もちろんそういう場合もないとは言いませんが、多くの場合「**相手が自分の気持ちを分かっているはず**」という仮定が間違っているのだと思います。Freeと言う英単語の意味は「自由」です。では「Smoke Free sheet」でタバコを吸えるのでしょうか？残念ながらこれは「禁煙席」つまり「タバコの煙から開放される席」と言う意味です。Freeには「開放される」と言う意味があります。「タバコを吸う人の気持ちは吸わない人は分からない」だから「禁煙席」という規則を作るのです。「自由」なのに「規則」？吸う人の自由と吸わない人の自由を両立するためには「規則」を作るしかないのです。「**規則は「自由をしぼるもの」ではなく「自由を保障するもの」と言う考え方**です。「**自分と違う人をどれだけ尊重できるか**」が情報モラル教育の、ひいては**人権教育の基礎**になるのではないのでしょうか。私は菊西中の子どもたち一人ひとりを「別個の人格」として尊重しようと考えています。(文責 校長)